

デジタルデータ化による 文化財の現状記録と 活用の可能性

墨田区は東京低地に位置するため、地震や洪水など自然災害への備えが必須です。こうした中、文化財の中でも特に石造物は風化が進行しており、万一災害が生じた場合には、文化資源としての利活用はもとより後世への継承が困難になると予測されます。

一方、文化財の観察・鑑賞は、従来「見る」ことを前提としており、博物館における企画展等では、特に視覚障害者の皆さまに観察・観賞していただくことが難しかったと考えられます。

こうした問題意識から、私たちは、災害発生後に文化財を現状に近い精度で復元または再現することができるよう、まず3D技術を活かして石造物の現状記録を作成しました。また、そのデジタル・データを利用して「触る展示」に活用できる文化財レプリカを試作しました。

今回の展示では、それらの研究成果を一部公開し、今後の研究のために広く御意見を募りたいと考えています。



埋蔵文化財
ぶら人形3Dデータ

アクセス

東京都墨田区両国 2-8-10 諸宗山 回向院

JR総武線両国駅西口より徒歩3分、
地下鉄大江戸線両国駅より徒歩10分

